

ABIC 国際社会貢献センター

Information Letter

No.35 2012年11月

外国企業支援	“エンジェル・フォールに行こう！”「旅博2012」ベネズエラ館アテンド報告 ……	2
自治体・中小企業支援	インドネシアからの鋳物製品輸入 ……	3
教育	日本貿易会／ABIC／関西学院大学／青山学院大学共催プロジェクト ……	5
	1. 高校生国際交流の集い ……	5
	2. 大学生と高校生の共同研究にABIC講師も活躍 — 高大連携講座2012 ……	6
	長崎県立大学夏季集中講義、3年にわたるワクワク体験報告 ……	7
留学生支援	東京国際交流館での活動 ……	8
	サマーフェスティバル ……	8
	秋の新入館者歓迎バザー ……	8
私のボランティア活動	東北マジック行脚 ……	9
新刊紹介	『58歳からはじめる定年前後の段取り術』 ……	4
	事務局長着任のご挨拶 ……	10
	事務局の移転 ……	10
	ABIC事務局組織 ……	11
	会員の種類 ……	12
	賛助会員入会のお願い ……	12
	法人・個人正会員／賛助会員一覧、活動会員数 ……	12

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル23階
Tel: 03-3435-5973 Fax: 03-3435-5970
e-mail: mail@abic.or.jp

【関西デスク】
〒541-0053 大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第2ビル9階
Tel & Fax: 06-6226-7955
e-mail: kansai-desk@abic.or.jp

外国企業支援

“エンジェル・フォールに行こう！” 「旅博2012」ベネズエラ館アテンド報告

あいはいら まさかず
相原 正和 (元ニチメン)

9月21日から23日迄、東京ビックサイトで開催された「JATA旅博2012」に出展したベネズエラ館ブースで、スペイン語通訳として他のABIC会員織辺重之さん（元住友商事：メキシコ、アルゼンチン等に駐在）、堀英一さん（元パイオニア：ベネズエラ5年など南米経験豊富）と共に、通訳業務に従事した。この「旅博」は旅行好きな方には有名な国際博で人気も高く、筆者も毎年参観してきた。1972年2月から3年間ベネズエラに駐在したので、我が脳裏には格別懐かしい思い出が詰まっており、他のお二方同様、張り切って出勤した。

今年の「旅博」は中国のドタキャンがあったものの、156の国・地域から、708の企業・団体が、1,083の小間を設けて大盛況裡に終了。入場者は金曜日のプレス公開・商談日、一般公開の土日を含む3日間で、12万6千人と過去最大を記録した。

ベネズエラは2年振りに政府観光庁が出展するという力の入れようで、熱い意気込みが感じられた。初日には石川成幸駐日大使もブースに来られ、観光庁出張者、大使館スタッフ、出展業者、我々を暖かく激励して下さいました。

「商談日」には多くの旅行会社、ツアーオペレーターなどがブースを訪れ、観光庁より駆けつけたセサルさん、ペドロさんなどを囲み、熱心にベネズエラ旅行について質問攻めにして高い関心を示した。一般公開の週末には9万人が殺到し、正に押すな押すなの大盛況。我がベネズエラ館への来客も極めて多く、3人で手分けしてベストアテンドした。

彼らは二つのタイプに分かれる。①ベネズエラに対する基本的知識を持ち、更に質の高い旅行関連情報を得たい、②ベネズエラについての知識は特に無いが、南米全般に興味があり、ベネズエラにも行ってみたいと漠然と夢見てい

る、というもの。

我々が一番驚いたのは、殆どの人達が「Salto Angel」（Angel Fall、同国東南部の秘境にあり“落差”世界一を誇る豪快な滝。この地域には有名なテーブルマウンテンもある）について知っていて、「是非あそこに行ってみたい」と強く願っている事実だった。筆者も40年前に彼の地を訪れた事はあるものの、現況については詳しくない。お客さんの鋭い質問を受け、セサルさん、ペドロさんに聞きながら、俄か仕込みのガイドになって、お客さんに説明できる様になった。

ベネズエラブースでは、日本人プロ演奏家によるベネズエラ音楽紹介もあり、多くのお客さんが取り囲み喜んでくれた。セサルさん持参の美味しいベネズエラコーヒーが振る舞われる中、昔懐かしいベネズエラの名曲、「コーヒールンバ」がハーブ演奏された時は、皆さんが足を鳴らし、リズムを取りながら、ハミングしていたのが印象的だった。

「旅博」会場では、色彩豊かで派手な衣装をまとった美男美女による民族舞踊が披露され、軽快な音楽が流れる中、魅力的な各国の観光名所がテレビ画面に大写しされる等、実に明るく、楽しく、華やかな雰囲気で大いに盛り上がり、人々は山の様なパンフレット類を袋に押し込んでいた。ベネズエラは観光庁の力強い肝いりもあり、地道にしっかりと、同国が持つ未知の魅力を日本の旅行好きの皆さんに、強くアピール出来たと確信している。

今回の「旅博2012」に参加し、多くの新しい事を学び、新しいアミーゴを得たことは大変嬉しかった。この機会を与えてくれたABICの皆様には厚く御礼申し上げますとともに、ABICの活動が益々広がりを見せていることに深い感銘を受けた。



ベネズエラ観光庁、同国観光業者などとの集合写真：左から相原、ペドロさん、4人目織辺、その後ろ堀、右から2人目セサルさん



ベネズエラ伝統音楽のハーブ演奏

インドネシアからの鋳物製品輸入

はやし きくお
林 喜久雄 (元ニチメン)

2011年2月、ABIC大阪事務所で50年ぶりの面接試験を受けることになった。思えば採用する側として何百人の面接に立ち会ったことか、大西コーディネーターとそんな雑談をしているうちに、定刻の14時30分となり、部屋の隅にいた白皙の青年との面接に臨んだ。SZ社のS副社長である。

S副社長は15年ほど前の鋳物生産拠点の中国移転、その中国での人手不足と賃金の高騰、対策としてインドネシアでの第2の生産拠点の立ち上げ、その提携先探しの必要性を述べられた。

私からはジャカルタ駐在員時代に織機製造工場の合併を、国営の鋳物工場を相手に企画したことを説明、面接やら懇談会やら判然としないが活発な意見交換ができた。

翌日には採用が決まり、3月SZ本社訪問、業務委託契約締結、提携先候補の調査、5-6月にかけてS副社長とインドネシア出張、中部ジャワ・クラテンの中堅鋳物会社BK社を訪問、社長と面談し、会社の規模、生産能力、機械設備等を調査と事態は目まぐるしく急展開することになった。くしくもSZ・BK両社とも3代目の時代を迎え、会社は若々しい。

SZ社との業務委託契約締結から1年6ヵ月、第1ステージのJoint Operationまではまずまず成功裏に終始し、今や第2ステージ、整備した設備のフル稼働体制の確立と検査会社の設立に向けての準備期間へと移行しつつある。

以下第1ステージにおける主なポイントを時系列的に列挙してみることにしよう。

- SZ社から社長、副社長がそれぞれ2-5回、BK社のクラテン工場とジャカルタ工場を訪問。
- 2011年11月、BK社からは社長、ジャカルタ工場長（取締役）、製造部長が来日SZ社訪問、Joint Operationに関する基本契約締結。
- 本基本契約に基づき、12月15日、JODCベースによる専門家派遣（8ヵ月、2012年7月末まで）
- さらに2012年2月、BK社に無償でリースする中古の製造ライン一式を名古屋港より船積み、これに対応してBK社もジャカルタ工場に塗装ライン、クラテン工場に小型金型内製のNC旋盤導入と、SZ・BK両社が量的・質的競争力アップに必要な設備投資を意欲的に推進し、5月末に据え付け完了となる。
- 2012年5月、紆余曲折を経て、当面買い付け予定のマ

ンホール、ルーフトレイン等32アイテムの価格交渉決着、これに基づく第1ロット、約1万ドル相当は既に発注済み。

8月末に名古屋港到着。またこれに並行して；

- 対外的に通用する英文発注確認書のフォーマットの整備（中国の100%子会社との間では特に必要なかった）。
- BK社の過去3年間の決算書および監査法人による監査報告書を取り寄せて和訳。途上国のこの規模の会社にしては、しっかりした内容で企業としての志も高い。

以上1年半のビジネスを通じて振り返ってみると「インドネシアも変わったなあ」というのが実感だ。思えば1963年の最初のジャカルタ赴任から前後5回、累計17年間のインドネシア駐在を終えて、1989年3月ジャカルタ支店長の職を最後に帰国して約23年間、この間、大統領もハビビ、ワヒド、メガワティ、ユドヨノと4人交代している。

これに先立つ約30年間にわたるスハルト長期政権をどう見るか。「独立の父」といわれる初代スカルノ大統領に対して、「開発の父」という評価はほぼ固まっているといえようが、他に「強権的」「経済最優先」「ファミリービジネス」「アセアンの盟主」「GDPの20倍増」等々功罪入り乱れた見方がある。ただ世界最大のイスラム人口を抱える当時のインドネシアの在り方こそ、イスラム教国の模範であり、理想の姿だという欧米、特に米国での高い評価を得て、国際的な地位は大いに高まった。一方、敬虔なイスラム教徒にとっては、つらく、ある意味では屈辱的な30年間ではなかったか。

スハルトの退陣とともに強権的な支配体制が緩み、ハビビ、ワヒドと親イスラム色の強い政権が誕生すると、鬱積していたイスラム教徒の不満が、バリ島爆破事件（2002年）、ジャカルタのホテル爆破事件（2003年）、豪州大使館爆破事件（2004年）と一気にジユマ・イスラミア等過激派によるテロ活動へと連なっていくのだ。

さらに争議権解禁によるストの頻発と相まって、多くの日系企業の撤退が続出、5代目メガワティの時代には、インドネシアからの離脱を志向する「自由アチェ運動」との和平交渉も決裂して、非常事態宣言が発せられるという最悪の事態を迎える。

2004年10月、初の直接選挙による6代目ユドヨノ大統領

領誕生。一見頼りなそうに見え、世論にたたかれながらも、ある種のツキもあり、見事な手腕で政治、経済、社会を軌道に乗せてゆく。ユドヨノ大統領が2期8年の任期を成功裏に全うすることは間違いないし、中興の祖といわれる時代が来るような予感がする。

ある種のツキとは、敬虔なイスラム教徒と過激なイスラム教徒の離反である。敬虔なイスラム教徒の目にも、上記の一連のテロ事件は、神の教えにも反する許しがたい暴挙と映ったのであろう。彼らの通報により、過激なイスラム

教徒のアジトが次々と警察軍によって殲滅されていったのだ。

欧米・日中をはじめ世界経済の成長にも陰りが見える中で、幾多の難問を克服しながら、政治、経済、社会いずれの分野でもアジアで、いや世界で最も安定した成長を続けているインドネシアに心からなる声援と拍手を送りたい。

またこの環境の下で、SZ社の第2の生産拠点として、BK社との協業が一層円滑に進むよう微力ながら引き続き尽力しようと考えている。

新刊紹介

円満なこれからを考えたときに！ 『58歳からはじめる定年前後の段取り術』 《仕事よし！家族よし！体よし！》 後悔しない定年ライフを送るための59のヒント

著者：山見 博康

(元神戸製鋼、ABIC 会員、山見インテグレーター(株) www.yico.co.jp)

明日香出版社 四六版、299 頁 定価：1,600 円+税



本書は、“老いの段取り実用書”であり、多様な人生の実例集、すぐに役立つ人生辞典でもある。「人生の記録」「エンディングノート」のダウンロードは有用。

著者自ら“頭より足”と100人以上を取材。その中から様々な生き方をテーマ別に59人を紹介、専門家25人を含み計84人が登場する。(ABIC及び会員も紹介)

読者は“GTI = 元気で、楽しく、生きがいをもって”人生を謳歌し、PPK = ピンピンコロリと旅立つのに多くのヒントが得られよう。

“おい”に3つの意味あり。①老い：若者と対比する“おい” ②負い：負い目の“おい” ③追い：夢やロマンを追いかける“おい”

我々は、いつも何かが起こる明日のため、何が起こるか判らない明後日のため、想定すらできない不確実な1年後、3年後…のために、自身の豊かな未来を切り拓きつつ、着実に生きる準備をしたいもの。老いは奪われていく過程ではなく、苦勞を背負うだけの苦しみでもなく、生きられる喜びや誇り、生かされている感謝や幸福を実感する“追い”であり、夢を追いかける“追い”。そこで、老いや負いを、“追い”に変えていこう。

【目次】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 序章 段取りとは | |
| 第1章 家族との絆の段取り | 第4章 趣味を謳歌する人生の段取り |
| 第2章 人とのつながりの段取り | 第5章 健康の段取り |
| 第3章 現役仕事の段取り | 第6章 最後の段取り |

教育

日本貿易会 / ABIC / 関西学院大学 / 青山学院大学共催プロジェクト

1. 高校生国際交流の集い

日本貿易会・国際社会貢献センター（ABIC）は関西学院大学（7月26日、27日）と第6回、青山学院大学（7月28日、29日）と第5回目の高大連携プログラム「高校生国際交流の集い」を開催した。

この催しは2007年度からABICと関西学院大学並びに青山学院大学の共催で関西と関東でスタート、日本と海外の高校生の交流を大学生が企画から運営まで中心的役割を担いつつリード、大学教授、社会人が側面支援を行う産学協

同の試みとし、互いに異文化理解を深めることを目的とした高大連携教育の一環として、日本と米州、ヨーロッパ、アジア諸国の高校生が寝食を共にして語り合う国際交流の場を提供している。

関西は民間国際教育交流団体のAFS大阪支部、および日本国際交流振興会（JFIE）、関東はAFS日本協会東京支部が協力団体で参加した。

関東（7月28-29日）

昨年度は残念ながら震災の影響によりやむなく中止としたが、以前より参加者・関係者に好評いただいたこともあり、本年度再開、実施の運びとなった。

丸紅㈱の協力により丸紅多摩センター研修所で、ABIC CAMP 2012と銘打ち「Another eye, I and 愛」の主題の下にグループ毎に独自・個別に討議テーマを決め、討議をした。参加した高校生は、横浜市立横浜商業高等学校、東京学芸大学附属高等学校、青山学院高等部、神奈川県立相模原高等学校、私立横須賀学院高等学校から日本人17名、アメリカ、フランス、イタリア、デンマーク、ブルガリア、オーストラリア、タイ、マレーシアから来日中のAFS交換留学高校生17名の計34名。リード役はAFSボランティア大学生・青山学院大学大学生の計11名。AFS交換留学高校生は日本語研修が来日目的で、英語より日本語が通じやすい留学生もいることに着目、交流の場では英語のみならず日本語も可とした。

初日の朝研修施設へ集合した時には、リラックスモードの留学生に比べ、日本の高校生は緊張した様子だったが、大学生スタッフの巧みな司会進行により、開会式直後には明るい雰囲気作りを演出したゲームを通じてすぐにお互い打ち解け英語による交流が始まった。

その後は、全体ワーク、グループディスカッションを重ね、お互いの国の文化の理解を深め、合間には楽しいアクティビティが盛り込まれ、1日目の夕食後には模造紙やビニールテープを使ったグループ対抗のファッション・ショーが行われ、大いに盛り上がった。

2日目最終プログラムで、各グループによるディスカッションの発表会が行われ、伊地知ABIC常務理事による講評に続いて、参加者全員による投票で選ばれた最優秀グループが関ABIC事務局長から発表・表彰された。

最後に希望者より1人1分ずつ感想スピーチが述べられ、誰もがこの2日間が楽しく、充実していたということ、他国の文化をよく知ることが出来たということをお話していた。ある日本の高校生からは、今までは英語に自信がなかったけれども、思い切って参加したおかげで英語学習の楽しさと意欲が身に着いたとの感想があった。その後実行委員長の長谷川青山学院大学副学長のスピーチと参加者全員の記念撮影で無事2日間の幕を閉じた。

今年度の大学生ボランティアの反省と参加高校生のアンケート回答を参考に来年度もより洗練された高校生交流の集いに結実させたい。

（小中高校国際理解教育コーディネーター
角井 信行、川俣 じろう）



優秀チーム表彰



開会式の後で

関西（7月26-27日）

今年も真夏の関西学院大学上ヶ原キャンパスに高校生と12カ国からの留学生が集まり、交流の集いが行われた。今年で第6回となる「高校生国際交流の集い2012」が「想像を創造へ。Make a change」をテーマに開催された。

参加高校は兵庫県立宝塚西高等学校、兵庫県立国際高等学校、大阪府立箕面高等学校、大阪府立千里高等学校、私立啓明学院高等学校、関西学院高等部で、計33名の高校生。留学生はAFS、JFIE（日本国際交流振興会）、およびいくつかの高校に留学中の米国、イタリア、インドネシア、オーストラリア、スウェーデン、タイ、チェコ、中国、フィンランド、ブルガリアからの計26名が参加した。昨年は、東日本大震災で参加留学生の数が限られたが、今年は多くの留学生の参加が実現した。

初日は山本関西学院大学副学長による開会の挨拶、グローバル関西学院院長の講演に続き、この行事の推進役となる関学学生スタッフの紹介でスタートし、昼食後のレクレ

ーションで互いに打ち解け、その後「食」、「国際交流」、「環境」、「ITグローバルコミュニケーション」、「社会」、「愛」をテーマとする6つのグループに分かれ、大学生スタッフの指導によりディスカッションを行った。

2日目もグループディスカッションを続け、午後にグループ毎に各々工夫をこらした方法で結果が発表された。参加高校、留学生を送り出した高校教諭および伊地知ABIC常務理事、関ABIC事務局長も審査に参加し、評価採点を行った。関学国際教育・協力センターの大西加奈子氏が英語で全グループの発表結果を講評し、最優秀、優秀の2グループを表彰し、他の4グループにも各グループの特徴を現した特別賞を授与した。関ABIC事務局長による閉会の挨拶の後、山本副学長が参加者全員に修了証の授与を行い、参加者が互いに2日間の活動を振り返り、語り合い、写真を撮り合う楽しい時間を過ごし散会となった。

（関西デスクコーディネーター おおにし としお たちばな ひろし 大西 稔男、橘 弘志）



グループ全員で表彰式後に



2日間共に過ごした仲間とリードしてもらった大学生全員で

2. 大学生と高校生の共同研究にABIC講師も活躍 一高大連携講座2012（7月30-31日）

関西学院大学学生と高校生がグループに分かれ、共同研究を行うユニークな行事が今年も6月23日のオリエンテーションを経て、7月30日および31日関学上ヶ原キャンパスで開催された。

2006年から始まったこの企画は、中断した年もあったが、今年は、関学国際学部の主導、同社会連携機構の協力のもと、一般講座の形式をとり、大学生8名、高校生8名が参加し、「日本とアメリカ - 宗教や経済をめぐる関わり」をメインテーマとして開催された。関学国際学部の杉山教授、鷲尾教授による講義に加え、ABICから横館、平野会員が、それぞれ「ジャズの楽しさ」、「現場から見た日米貿易」をテーマに講義を行った。大学生、高校生にとって興味ある講義であり、講義終了後、高校生が自己の今後

の進路についてABIC講師に相談する場面もあった。大学生と高校生による共同研究は、より具体的なテーマを設定し、大学生が高校生を指導しつつ、研究結果をまとめてゆくもので、杉山教授、宝塚西高校の鈴木教諭が、適宜助言を与え、より多くの教育効果を発揮できた。

日程の最後に、各グループは、「テーマパークに見る日米の差」、「日米貿易摩擦の歴史」、「日米の政治トップ指導者の選べられ方に見る日米の差」について研究結果を発表した。審査を務めた杉山教授、鈴木教諭、伊地知ABIC常務理事から講評があり、修了証の授与の後、天野日本貿易会専務理事から閉会の挨拶を頂き、今年度の一高大連携講座を成功裏に終了した。

（関西デスクコーディネーター おおにし としお たちばな ひろし 大西 稔男、橘 弘志）



高校生と大学生と一緒に受講する



発表会を終え関学大国際学部杉山教授を囲んで

教育

長崎県立大学夏季集中講義、3年にわたるワクワク体験報告

住友大阪セメント(株) 監査役 **ほさか しょうじ** 保坂 庄司 (元三井物産)

ABICから「国際商品取引論」の講師募集の案内を頂いたのは2009年の年末のことである。食料・エネルギー・非鉄金属という複数の相場商品部門に長く携わった経験から本論に馴染みもあり、会社勤務を通じ体験し培った知見をベースに、自らの価値観・問題意識等を若者達に語り掛け交流する良い機会と捉え、積極的にお引き受けすることとした。

長崎県立大学は大学院課程を併設し、国際社会に貢献できる人材の育成を理念の一つに掲げ、国際交流に注力し留学生を積極的に受け入れている。学生の出身地は約半数が長崎県外であり、西日本に広く分布している。

「国際商品取引論」は経済学部専門課程3・4年生の選択科目2単位15コマであり、私が遠路東京からの出講のため、8月末頃の1週間に集中講義として実施している。

講義の準備は、出身会社の各部門に資料提供を依頼し、各産業界団体や内外の主要取引所にコンタクトを取るほか、インターネットを活用して資料収集に努め、講義の概要や資料をパワーポイントやビデオ等にまとめている。

講義の構成は、第1章では先物市場の機能と商品取引所の課題等、第2章で主要国際商品の取引環境や価格形成要因等、第3章で食料・エネルギー危機、地球環境問題との関連等を、それぞれ考察・解説している。

3年間で受講生総数は180名に達した。集中講義は講師にとりタフな日々となるが、学生達も連日同じ講師の講義が長時間続き決して楽ではない。その彼等を惹き付け続けるためにも、ビジネスの様々なエピソードや国際商品の主要産地ラテンアメリカの文化、更に世界遺産等の話題を適宜織りまぜている。また受講生達が能動的に学習するようにと、質問を浴びせ彼等が自ら考え意見を発表するように図っている。彼等はその大半が真面目でシャイで、当初は教室での意見発表や講師への質問等に消極的だが、授業の



教壇の筆者

流れに慣れると活発に発言するようになるので、しっかりとした手応えを感じている。今年は食料安保問題に加え中国の反日運動への対応等に強い関心が示された。

成績は講義終了時に課す小論文を中心に総合的に評価し決定している。小論文からは講義の理解度に加え各自の主義主張が読み取られ、興味深い発見もある。

一方受講生による授業評価アンケートも行われ、その結果は講師にフィードバックされる。授業に込めた熱意や、国際社会には若者が活躍する大舞台があるというメッセージが彼等に届いているためか、結構高い評価を受け大いに励みになっている。

卒業式等の行事で学生達と再会するのは実に楽しい。また大震災直後の見舞いや就職内定の喜びの報告等をメールで貰い、卒業後も交流が続く教え子達がいることは望外の喜びである。

国際商品取引の諸問題がますます重要性を高める今日、これらをライフワークの一つとしてフォローすると共に、講義の品質向上を目指して来年度もチャレンジしたいと考えている。このような貴重な機会を斡旋しご指導下さったABICの関係各位に改めて感謝したい。



受講生と中庭にて

留学生支援

東京国際交流館での活動

サマーフェスティバル

8月11日（土）に恒例のサマーフェスティバルが行われた。この日はお台場全体がお祭りモードに包まれて朝から各所で催し物が始まった。

交流館の催し物は、各国の料理の屋台（ネパール、グルジア、ミャンマー、マレーシア、タイ）、日本文化紹介、国際シンポジウム、ステージイベント、それに盆踊りで、ABICは日本の伝統文化に親しんでもらうため、茶道、華道、書道の体験教室を開いた。

この教室は毎月ご指導頂いている講師の方々、ABICのボランティアおよび留学生の皆さんの協力を得て実現できた。

体験教室の参加者は、茶道61名、華道46名、書道54名、総勢161名であった。

フェスティバルの最後は留学生と地元住民の方々が輪になり、一緒になり盆踊りを楽しんだ。



秋の新入館者歓迎バザー

10月28日（日）に第22回新入館者歓迎バザーが催された。当日は生憎雨天となったが、交流館のピロティー下一杯に寄贈品を展示し、留学生やその家族の日本での生活のために供することとした。ABIC会員、支援企業とその社員、日本貿易会役員と職員各位からの寄贈品は350箱を超し、丁寧にクリーニングされた衣服や生活用品は多くの在館者に好評であった。今回のバザーも、運営の中心となるRA（日本人学生在館者）の人手不足のため、

交流館から人的支援の要請を受けることとなった。

この要請に対し、同館の「日本語広場」の講師や就学サポート等を務めるABIC会員6名がバザー販売係として、急な要請にもかかわらず参加いただいた。

バザーの売り上げは23万円となり、昨年秋季バザーの17万円を超え前回春季とほぼ同額となった。

売上金は従来通り交流館の留学生への支援金として提供された。



（留学生支援担当コーディネーター）

私の ボランティア活動

東北マジック行脚

あかだ たけし
赤田 堅 (関西デスクコーディネーター、元丸紅)

宝塚市が主催する「希望応援隊」に参加しました。市長が“宝塚から東北に希望を届けよう”との思いから隊の名前を命名されました。2012年6月8日、市長から“心の癒し、笑顔を届けて”と激励を受け、夜行バスで市役所を出発しました。

宝塚市として応援隊を派遣するのは、今回が10回目ですが、前回までは瓦礫の除去等が目的でした。今回は“心の復興”がテーマでした。現地にはこれまでもプロのエンターテイナーが訪れてはいますが、全て大きな会場での催しで、交通の便、あるいは身体的理由でそこまで足を運べない、小さな仮設住宅で生活している人たちを対象に、笑顔届けて欲しいとの要請でした。一行は、我々マジックが6名、腹話術、落語、南京玉すだれが各1名、この他に、花苗を植える人、子供と積み木や紙飛行機で遊ぶ人、お年寄りと一緒に手芸をし、アクセサリーを作る人、アロママッサージをする人、歌の指導をする人等が加わり、総勢23名でした。

目的地の南三陸町歌津には、翌9日午前8時に到着しました。現地到着後、グループ別に、9日午前と午後、更に10日の午前と、3回に亘り、仮設住宅の集会場を訪れ、それぞれの芸を披露しました。マジック組は二人一組で、3グループに別れ行動しました。10日の夜は、地元主催の交流会が開かれ、地元対宝塚で野球拳の対抗戦をしたり、南京玉すだれ、マジックを楽しみました。各集会場とも、子供さんから、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんまで皆さん、「笑顔、笑顔」、「震災後、初めてお腹の底から笑いました」「楽しかったです」と



感謝の言葉を頂きました。

とは言え、被災地はいまだに瓦礫の山が方々に見られ、住宅地跡は、基礎部分が残るのみ、JRの駅も高架線路も切断されたまま、幹線道路も大きく崩れたままです。1年3か月経った今も、ごみは整理されてはいるものの、ガレキは自然発火を防ぐため定期的に重機で掘り起こしが必要で、見た目には、震災直後のままでした。宝塚に戻り、平凡な毎日こそが幸せと実感しております。

大変な生活の中、皆さんに一ときでも喜んで頂き、少しは心の癒しに役立ったかと思えます。11日早朝にも関わらず、副市長以下関係者の温かい出迎えを受け解散式が執り行われました。「素晴らしい笑顔をもた届けたい。機会があればもう一度訪ねよう」と参加者全員で話をし、解散しました。往復夜行バス、3泊4日の強行日程でしたが満たされた「希望応援隊」でした。



事務局長着任のご挨拶

2012年7月に伊藤忠商事(株)より出向し、国際社会貢献センター（ABIC）の事務局長に就任いたしました関です。誌面をお借りして自己紹介を兼ね簡単にご挨拶をさせていただきます。

1979年に伊藤忠商事(株)に入社し経理、国際金融、海外市場、総務、広報と主に職能畑を歩んでまいりました。海外駐在は北京に3回赴任し1989年には天安門事件に遭遇いたしました。

職歴では10年弱を広報で過ごし、この間ファミリーマートの広報部長を4年勤め、商社とは異なり消費者と向き合う広報の難しさも経験しました。

私自身の社会貢献活動としては、東日本大震災復興ボランティアとして陸前高田で2泊3日の瓦礫拾いをした程度でしたが、7月より日本貿易会を設立母体とする我が国でも稀な「事業型NPO」の運営に携わることができ本当に嬉しく思っています。国際ビジネスの舞台上で活躍されたABIC会員という最強の知的財産を活用させていただき、それを必要とする国内外の中小企業や大学等の教育機関をはじめ、幅広いフィールドへの支援という社会貢献活動は私にとり得難い経験となっています。

着任早々新事務所への移転というABICにとって大

きな節目がありました。

設立から今年4月で13年目に入り登録会員数は2,300名弱となり、今後団塊の世代の退職が進むとさらに会員数が増加すると考えられます。また、活動人数は設立翌年の200名から2011年度



関 伊知郎 事務局長

は約1400名と7倍程度に増加しABICの事業は大きく伸長し、それに伴いコーディネーター、プロジェクトスタッフも増員してまいりました。設立以来日本貿易会内に事務所を間借りしてきましたが、手狭になってきたことや更なる活動強化のため、今年9月同じ世界貿易センタービルの23階に移転いたしました。まさにABICは更なる飛躍に向けた新たなステージに入ったと考えております。今後積極的な対外PR活動を行いABICの知名度を上げ会員の皆様に活躍していただく場、すなわち新事業の開拓と事業基盤の整備を行うことが私のミッションであると考えておりますので、どうぞ皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

事務局の移転

2012年9月10日にABIC 事務局が下記に移転いたしました。

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル23F

TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5970



受付



事務所内



会議室

ABIC事務局組織

2012年7月1日より下記の体制となりましたのでお知らせ致します。

理事長	いちむら やすお 市村 泰男
常務理事	いじち のりひと 伊地知 紀仁
事務局長	〈新任〉せき いちろう 関 伊知郎
事務局 (1名)	しのはら あゆこ (派遣)、どうけ ちなみ 篠原 亜由子 (派遣)、道家 千波 (8月から1年間休職) mail@abic.or.jp
コーディネーター (14名) / プロジェクトスタッフ (12名)	

() は兼務者、[PS] はプロジェクトスタッフ

- 総務・会員登録関係 くろき ひろみ
黒木 裕美 [PS]
- 総務・広報・OA 〈新任〉あおやぎ ゆき
青柳 友紀 [PS]
- 経理 はしもと まさひこ
橋本 政彦
- 自治体・中小企業支援グループ しらいし いちろう かわたた じろう たかひろ じろう さとう とおる
白石 一郎、川俣 二郎、高廣 次郎 [PS]、佐藤 徹 [PS]、
〈新任〉にいづま じゅんいち
新妻 純一 [PS]
- 外国企業支援グループ にしやま かつあき
西山 勝昭
- 大学等講座グループ もり かずしげ いがり まゆみ ふせ かつひこ たにがわ たつお おんだ ひではる
森 和重、猪狩 真弓、布施 克彦、谷川 達夫、恩田 英治、
〈新任〉ばんの まさのり
坂野 正典 [PS]
- 小中高校国際理解教育グループ かわまた じろう かくい のぶゆき
川俣 二郎、角井 信行
- 留学生支援グループ たなか たけお くわがた いさお
田中 武夫、鋤形 勲
- アジアグループ (橋本 政彦)
- インドネシアデスク しのさき ひさし
篠崎 尚 [PS]
- メコンデスク mekong@abic.or.jp
- 中南米デスク (森 和重)
- 関西デスク ふじわら てるあき おおにし としお あかだ たけし たちばな ひろし
藤原 照明 [PS]、大西 稔男 [PS]、赤田 堅 [PS]、橋 弘志 [PS]、
よしとみ しげたか
吉富 茂隆
- 産学共同プロジェクト (川俣 二郎、角井 信行、大西 稔男、橋 弘志)
- 新規案件 のづ ひろし
野津 浩 [PS]

e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく！

e-mail アドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。
転居先不明で返送される例が増えています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5970

会員の種類

種類	内容	年会費
正会員	センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会)	法人及び団体 1口 50,000円
		個人 1口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める活動会員、並びに個人、法人及び団体。	法人及び団体 1口 10,000円
		個人 1口 5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要 — —

正会員

団体・法人 (18社) (社名五十音順)

〈10口〉 (一社)日本貿易会 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株)
 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 阪和興業(株)
 〈1口〉 兼松(株) 協同木材貿易(株) 興和(株) JFE商事(株) 蝶理(株)

個人 (9名) (入会順・敬称略)

池上 久雄 寺島 實郎 小島 順彦 宮原 賢次 吉田 靖男
 岡 素之 佐々木 幹夫 勝保 宣夫 (3口) 小林 栄三

賛助会員

法人 (3社) (社名五十音順)

(有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ キーリサーチネット(株)

個人 (373名)

下記は2012年6月以降にお申し込み頂いた方です。ご協力に深謝申し上げます。(敬称略・氏名五十音順)

〈3口〉 岩間 憲道
 〈2口〉 篠原 博 白石 一郎
 〈1口〉 岡本 勝彦 工藤 章 笹岡 太一 豊原 道雄 廣瀬 一郎 山見 博康

活動会員 2,265名

(2012年10月末現在)

賛助会員入会のお願い

ABICの活動にご賛同いただき、資金的な援助をしていただける活動会員及びその他の個人の方、並びに法人及び団体の皆様のご入会をお願い申し上げます。

会員入会のお問い合わせ・連絡先

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル23F

TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5970 E-mail : mail@abic.or.jp